



2019年6月号

ウトナイ湖通信

No.181

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

「春のウトナイ湖・ウォークラリー」でクイズに挑戦

超大型となった今年のゴールデンウィーク。苫小牧市民の皆さんをはじめ、来道された観光客の方々にも春のウトナイ湖を楽しんでいただこうと、ウォークラリーを開催しました。

天候に恵まれない日があったものの、10日間の参加者は244組714名。皆さんには1周約500メートルの自然観察路をゆっくり歩きながら、途中に設置された8個のクイズに挑戦いただきました。問題はウトナイの春の自然、特に植物に関するもので、じっくりと観察して解くようになっています。ゴールで答え合わせをし、参加記念のウォークラリー限定しおりをお渡ししました。

次回は夏休み期間中の土・日曜日および祝日に、夏の自然に関する問題を用意して開催します。どうぞお楽しみに。



受付で進め方を説明するボランティアさん



第1問目はドングリに関するもの



植物の芽ぶきに関するクイズに挑戦
3択から選んでいただく

野生動物に学ぶ救護セミナーを開催しました。

4月27日(土)、本年度第1回目の救護セミナーを開催しました。今回は、「知っているようで知らないカラスの話」をテーマに、NPO法人札幌カラス研究会の代表、中村眞樹子さんをお迎えし、カラスの基本的な生態や札幌を中心に調査された内容等についてお話をさせていただきました。苫小牧市内をはじめ、札幌市、恵庭市、江別市などから48名もの参加があり、身近に生息しているカラスということもあって、活発な質疑応答・情報交換などが行われ、有意義なセミナーとなりました！



講座風景

(次回のセミナーは、6月22日(土)「マダニにやられないために」をテーマに開催予定です)



【自然観察路情報】

2019年5月16日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、アオサギ
トビ、オジロワシ、チュウヒ、コゲラ、アカゲラ、ハシボンガラス、ハシブトガラ
シジュウカラ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、キバシリ
クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、ベニマシコ、アオジ



チュウヒ



ウグイス

《植物》

セイヨウタンポポ、エゾタンポポ、フデリンドウ、クロミノウグイスカグラ
ハルザキヤマガラシ、キジムシロ、ツボスミレ、タチツボスミレ、ミズバショウ(以上、花)
ズミ、オオアマドコロ、マイヅルソウ、ユキザサ、エゾニワトコ(以上、つぼみ)
アキタブキ、イヌコリヤナギ(以上、タネ)、コナラ(芽吹き)



ミズバショウ

《ほ乳類・その他》

エゾユキウサギ、キタキツネ(以上、ふん)、モンキチョウ(成虫)、オビカレハ(幼虫)

【水鳥カウント調査結果】

2019年5月16日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 *()内は個体数

コブハクチョウ(3)、オオハクチョウ(1)、ヨシガモ(16)、ヒドリガモ(5)、マガモ(1)
カルガモ(4)、カンムリカイツブリ(2)、アオサギ(4)、トビ(8)、オジロワシ(6)、チュウヒ(1)



6月の自然予報

印象として、例年に比べ、夏鳥の姿が少ないようです。とはいえ、センダイムシクイやキビタキ、クロツグミなどは比較的良好に観察されるでしょう。樹木の葉が茂らない中旬頃までがオススメです。さえずりにも耳を傾けてみましょう。



ツツドリ。「ポポッ、ポポッ」と筒を叩くような声で鳴く



湖岸の自然観察路では、学名に「アイリス」とついた青紫色のハナショウブやヒオウギアヤメが開花するでしょう。黄色のエゾキスゲは夕方に咲き、翌日の昼には閉じてしまいます。

ユリ科のエゾキスゲ。すぐにしぼんでしまう

林の中では、ユリ科の草花が見られるでしょう。ユキザサ、マイヅルソウ、オオアマドコロなど、どの花も小さく、可憐です。



紅鈴蘭の別名もあるベニバナイチヤクソウは、早くも5月下旬に開花しました。上旬まで楽しめるでしょう。



チョウ類にトンボ類、コウチュウ類などが活発に動き出す季節。日中はエゾハルゼミの声で賑やかになるでしょう。

はね

コサナエ。初夏に出現し、翅を広げて止まる

【ハンノキハムシ】

体長が1センチにも満たない小さな^{こうちゆう}甲虫。少し長めの丸い体つきで、^{ほね}翅は光沢のある濃紺色をしています。幼虫、成虫ともにハンノキの葉を食べ、ウトナイ湖周辺では6~7月にその葉に止まっているのをよく見かけます。



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれるのかも。

Q. ウトナイ湖周辺で見られるアヤメの仲間には、次の3種があります。このうち、「苫小牧市の草の花」にもなっているのはどれでしょう。



(あ) カキツバタ



(い) ノハナシヨウブ



(う) ヒオウギアヤメ

答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

エゾリス

2019年 5月 2日

苫小牧の民家の庭で子リスが1頭でいるところを発見

保護初日
体重78g



5月3日 前日より子リスが1頭であり、親リスはいない様子。元気がなくなっているため捕獲し、当センターへ搬入。初診にて、低体温を確認し、直ちに保温開始。2時間ほど経過すると動きが活発になる。その後、温めたミルクをシリンジで経口投与し、離乳食を与える。

5月15日 次第に食欲が出て、体重も増加。運動機能を高めるために、使用環境を広くしながら、経過観察中。

保護13日目
体重102g



エゾリス（ネズミ目リス科）

ユーラシア北部に広く分布しているキタリスの亜種。北海道の平野部から亜高山帯までの森林に生息しています。昼行性で主に樹上で活動し、種子や果実、キノコ、昆虫などを採食します。秋になると、クルミやドングリなどを冬の食べ物として貯食する習性があります。

イベント情報

第2回 野生動物に学ぶ救護セミナー ～マダニにやられないために～

日時：6月22日(土)10:00～12:00

定員：申込み先着30名

対象：高校生以上

申込み：(0144)58-2231 または直接来館で
(6/1～6/21 受付)

内容：マダニの生態、マダニ由来の病気、野外で
気をつけること、また、苫小牧や周辺地域のマダニ情
報などを紹介します。

講師 伊東拓也さん(ダニ専門家)



ニュース

ハシボンガラスが子育て中

当センターのすぐ前に営巣し、しばらく抱卵していたハシボンガラスに5月下旬、無事にヒナが誕生しました。ただいま子育てのまっ最中。人間の往来がある場所ですが、ガラスにとっては外敵が近づけないなどのメリットがあるようです。来訪された際には、子育ての邪魔をせず、そっと見守りながら観察してください。



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間:午前9時～午後5時 / 休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

